

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習	
科 目 名	子どもを支える看護実習			必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	(1) 時間(単位)
対 象 学 年	2、3年			学期及び曜時限	通年	教室名	実習施設
担 当 教 員	日下部 麻美	実務経験とその関連資格	看護師として小児科病棟で勤務していた。				
《授業科目における学習内容》							
健康障害によって入院を余儀なくされている子どもと家族について理解し、その子どもの成長・発達および健康回復を促す援助について考え実施する。また、安全・安楽に配慮して子どもと家族を尊重した関わり方を学ぶ。そして、保健医療福祉における小児看護の役割について考えを深める。							
《成績評価の方法と基準》							
1) 実習評価の対象および単位認定は出席状況が実習全期間2/3以上の出席が必要である。 2) 実習の評価については、実習態度・実習内容・カンファレンス参加状況により、総合的に指導者と担当教員が評価する。 3) 評価基準については①看護を学ぶこと、対象への関心・意欲、学ぶ姿勢、態度 ②看護実践を考える思考・判断 ③看護の基本的な技術・表現 ④看護活動に対する理解・知識の4つの観点で分類し、さらに実習の目標に沿った学習活動から評価項目を抽出し、評価する(詳細は実習要綱を参照)。 4) 評価は100点満点とする。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
小児看護学概論 小児臨床総論、小児看護学各論							
《授業外における学習方法》							
①小児援助論で事例による看護過程の展開演習(対象理解、記録の書き方) ②実習オリエンテーション(実習要項にそって概要の説明、実習施設の紹介、注意事項)							
《履修に当たっての留意点》							
実習要綱に沿い事前学習をしっかりと行い、実習に臨むこと。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	①オリエンテーションから施設や病棟、看護の実際について理解する。 ②受け持ち患児の情報収集を行い、患児の健康問題を理解する。		所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	病院実習オリエンテーション(外来実習があれば外来オリエンテーション) 受け持ち患児の決定 情報収集、コミュニケーション				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	①患児の健康問題を理解し、子どもとコミュニケーションをとりながらしっかりと関わり、成長・発達を促す援助について考える。②日々の看護援助を通して情報収集し、患児への理解を深める。		所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	受け持ち患児の情報収集、全体像の把握 看護援助の見学・実施(外来での見学実習) 遊びや学習支援への参加・見学				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	①患児の健康問題を理解し、子どもとコミュニケーションをとりながらしっかりと関わり、成長・発達を促す援助について考える。②日々の看護援助を通して情報収集し、患児への理解を深める。		所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	受け持ち患児の情報収集、全体像の把握 看護援助の見学・実施(外来での見学実習) 遊びや学習支援への参加・見学				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	①日々の看護援助を通して情報収集し、患児への理解を深める。②健康回復するために必要な援助について理解し、部分的に実践する。		所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	受け持ち患児の情報収集、全体像の把握 看護援助の見学・実施(外来での見学実習) 遊びや学習支援への参加・見学 最終カンファレンス				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習での学びを振り返り学びを定着する。		所持している教科書・参考書 小児看護学に関する授業資料まとめファイル	実習を通して必要な事前事後学習を行う。	
		各コマにおける授業予定	受け持ち患児の全体像の把握(全体像の記入) 学びの共有・全体像を用いたカンファレンス				